

海つばめ

マルクス主義同志会 機関紙 号外

〒179-0074 東京都練馬区春日町1-11-12-409
TEL 03-6795-2822 メール webmaster@mcg-j.org
ホームページ http://www.mcg-j.org

「労働の解放」こそ労働者、勤労者の合言葉だ

安倍と最後まで闘う代表を国会へ

民共に代わる労働者党を再建しよう！

何百万のギリギリの生活費で生きている貧しい労働者の群れ群れ。この中には日々生きていくだけで精一杯の母子家庭などの多くの女性労働者もいます。そして世界的な資本の競争の激化の中で2千万にも膨れあがった無権利・低賃金の非正規の労働者。さらには賃労働によってのみ、つまり資本に従属し、資本の利潤のためにのみ生きる数千万の賃金労働者の大群。

実に日本というブルジョア大国は、何千万もの膨大な労働者、勤労者を搾取し、収奪することによってのみ存在しています。せめて安倍等の言うように、経済が繁栄して資本のおこぼれが労働者、勤労者にもトリックルダウンして(したたり落ちて)来ればまだしも、実際には資本と労働者、勤労者の格差は拡大し、資本の階級は一層豊かに、労働者、勤労者は一層ますます行くなって行きました。資本の支配が頹廃し、衰退して、経済的停滞が慢性化すればするほど、こうした傾向は一層進み、深化しました。

我々は何千万の賃金労働者に呼びかけます、今こそ資本の支配に終止符を打ち、「労働の解放」を勝ち取り、搾取され、差別され、卑

しめられる自分たちの地位に決然としてとどめを刺すべきときです、と。

「労働の解放」とは、単に生産手段機械、工場、交通手段等々を国有化すればいいといったことではありません。ソ連や中国ではそんな改革も行われましたが、しかし現在のロシアも中国も労働者、勤労者の解放された社会ではないし、そうなりませんでした。

「労働の解放」とは、賃金労働を止めることとであり、労働者の搾取と差別を一掃することです。2千万もの差別され、生き行くのも困難な、膨大な非正規労働者群が生まれるのは、資本による労働の搾取が行われるからであり、また資本が労働者を差別して一層搾取を強めようと策動するからです。

だから労働の「差別」を無くすには、労働の「搾取」を無くさなくてはならず、また労働の「搾取」を一掃するには、労働の「差別」の廃止を伴わなくてはならないのです。

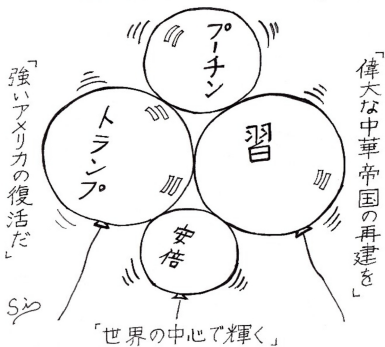
参院選が明らかになりましたように、民進党は第二の自民党ではありません。共産党もまた詭弁を弄しつつ、天皇制や自衛隊まで肯定し、擁護しつつ、今や現状肯定派、体制迎合派の雄にまで墮落しています。

今こそ資本の搾取体制と安倍政権に反対し、労働者、勤労者の利益と未来のために最後まで闘う政党が登場しなくてはなりません。

我がマルクス主義同志会は今春の大会で、自身のサークル的な闘いから脱却し、再び労働者党を組織し、国政に復帰することを、つまり国政選挙闘争、議会闘争に参加して闘い抜くことを確認、決定しました。

全国の、心ある労働者、勤労者、若者の皆さん！今こそ、こうした決定的に重要な闘いに参加し、結集して共に闘い抜こうではありませんか。

「大ロシア帝国の夢もう一度」



危険！大爆発の恐れあり 急膨張で押し合いへし合いの国家主義バルーン

破綻するアベノミクス 経済・財政は崩壊し、労働者の生活は破滅へ

物価上昇ですべてが
うまく行くかの妄想

アベノミクスは、2年間で物価を2%上昇させ、「デフレ脱却」を約束しましたが、4年近くなるのに物価は横ばい、「デフレ脱却」には程遠い状況です。「異次元」の金融緩和としてカネをバラまいてきましたが、資本系企業の資金需要がない中では、「経済の好循環」も実現できませんでした。

そもそも、物価を2%上昇させさえすれば好況になる、すべてがうまく行くというバカバカしい政策・理論のアベノミクスがまともな結果を生むはずありません。

働く者の賃金を上げるのもアベノミクスの課題だと語りましたが、この3年間、実質賃金は毎年マイナスを記録しています。無権利で低賃金の非正規労働者は2千万人にも膨れ上がりました。

安倍は、アベノミクスは道半ば、さらに加速すれば大丈夫と胸を張りますが、あるのは幻想や口約束ばかり、大丈夫なことは何もありません。

財政、金融のコンプレックス
(複合)も無駄だ

そして国家の借金はすでに1千兆円に達し、破綻状態にある中で、安倍政権は財政規律無視のさらなる膨張政策、金融緩和を継続・強化しています。安倍は毎年のように予算の4割を借金に依存し、2020年には基礎的収支(借金を除く歳入と歳出)の均衡を実現するとの約束も、絶望的です。

これだけ国債が増発されれば、利子率が上昇し、国債価格が暴落してもいいのですが、黒田日銀が「異次元」の金融緩和と国債買取政策で支え続けています。政府が1年に新規発行する国債に倍する80兆円もの国債を市場から買い漁り、その総額は300兆円を超えました。事実上の赤字国債の日銀引き受けであり、「財政ファイナンス」です。ヘリコプターマネー(日銀が大量の紙幣を刷ってバラマク)が実施されているに等しいとも言われます。

たわいもないことでした。

インチキ野党共闘を実現したのがシールズのほとんど唯一の“功績”でしたが、安倍や反動派に完敗し、改憲の発議に必要な3分の2の議席を許したのです。野党や組織ではためだ、個人(「市民」)

シールズの破綻

による闘いこそ重要だが、そこから、政党に

体知れない“市民”や“個人”による闘いの重要性や必要を叫びましたが、しかし実際にやったことは民進党や共産党という政党に、その共闘に期待して安倍政権に打撃を与え、憲法改悪を阻止して

「平和」や「民主主義」を守ろうという、

しかも民共といった、腐敗政党に期待し、依拠するしかないとするなら、すでにシールズや市民派は最初から矛盾し、破産していたのです。

かくして個人主義者の市民派の破綻や幼稚なシールズの解散は必然でした。

《同志会の紹介》

同志会は、60年代から社共に変わる新しい労働者政党をめざし、内ゲバ(中核・革マル)などの急進主義とも一線を画して闘ってきました。旧社労党(マル労同)時代には、10回以上の国政選挙、地方選挙に参加してきましたが、03年に社労党からサークルに移行し、セミナー活動や宣伝活動、「資本論」研究会などの地道な活動を続けてきました。今年の大会で、政党としての闘いを再開すること、次の国政選挙への参加を決定し、準備を進めています。

世界では、米国がリーマンショック後のゼロ金利や金融緩和政策を転換し、今年中にも金利の再引き上げを図ろうとし、ドイツは財政規律の重視を謳うなど、「財政健全化」の動きがあります。これはブルジョア勢力の中にも野放図な金融財政緩和に深刻な危機感があるからです。ところが、安倍はそうした「健全化」の動きを軽視し(逆らうかのよう)に、金融緩和も財政膨張も共に(結びつけて)やればいい、できることは何でもやるというわめくばかりです。

こうしたアベノミクスの行き着く先は、ギリシャのような国家財政の破綻、労働者大衆の生活の困難と破壊でしかありません。そして、野党民共もアベノミクス(の加速)を根底から批判することはできません。彼らも、ケインズ主義的な「需要喚起政策」を共有しているからです。

日本の国家財政、経済信用関係は崩壊・破滅に向かって突き進んでいるからです。労働者、勤労者はこうした状況に対し、断固闘つ決意を固めなくてはなりません。